

今月の星空



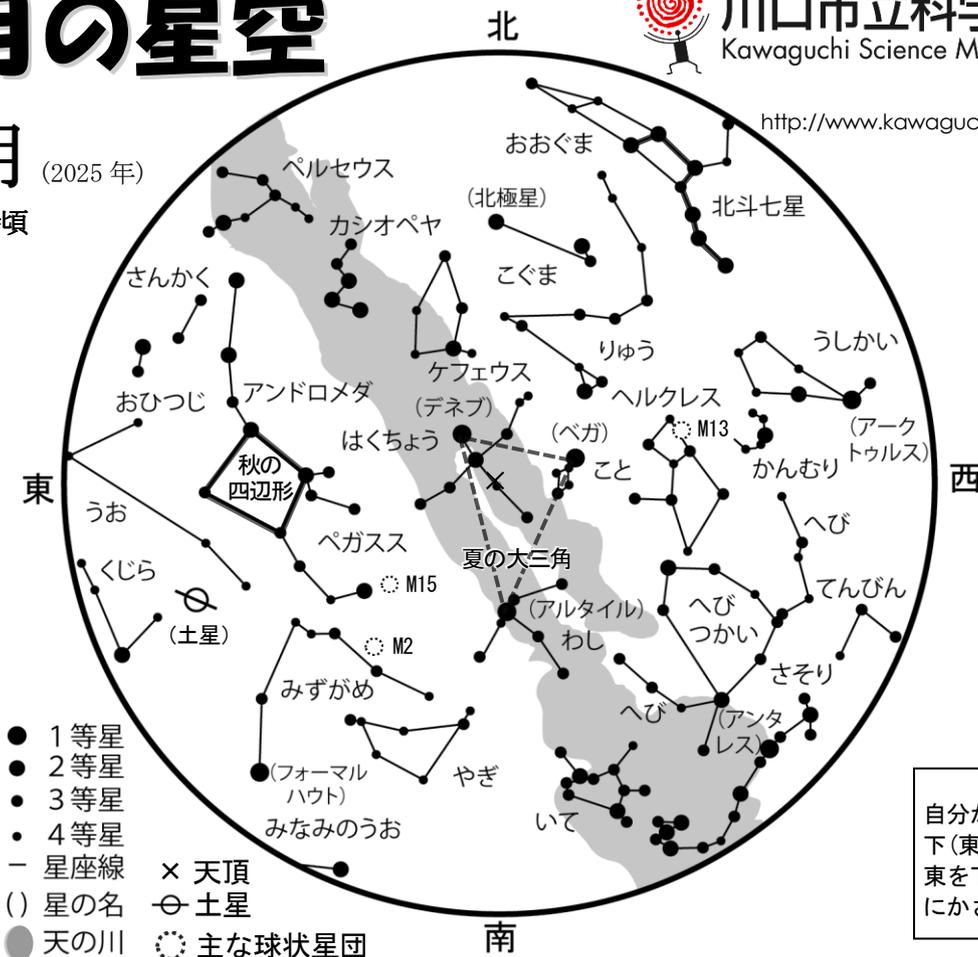
川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

9月 (2025年)
中旬 20時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。

月 齢 ○ 満月 8日、● 下弦 14日、● 新月 22日、● 上弦 30日

惑星情報 金星 日の出前 東(かに→しし座 -4等) 木星 日の出前 東(ふたご座 -2等)
土星 夜のはじめ頃 東→南東(うお→みずがめ座 1等)

★秋の目印「秋の四辺形」と観望好機の土星

中旬には日の入りが17時台となり、夜の訪れが早く感じられる頃です。夜空を見上げると、天頂付近の高いところで「夏の大三角」が目を引きまます。その東側には、秋の星座が昇ってきています。夏の星座に比べて、市街地でも目立つような明るい星は少なめですが、特徴のある星座を見つけましょう。まず目印となるのが、東の空で2~3等の4つの星が四角形をつくる「秋の四辺形(ペガサス座の一部)」です。そこから北寄りに目を移すと、秋の四辺形ほどの明るさの星がW型に並ぶ「カシオペヤ座」が、また、南寄りの低い空には、秋の星座で唯一の1等星「フォーマルハウト」が見つかるでしょう。

秋の四辺形のやや下方には、約1等で輝く土星が目立っています。この土星は、21日に「衝」を迎え、一晩中見られる観望好機となります。今年の土星は、約15年の周期で訪れる、土星の環をほぼ真横から見る時期に当たり、望遠鏡では非常に細い(傾きが小さい)環が観察できます。

※地球から見て太陽のちょうど反対側に位置するとき。地球との距離が近く、明るくて見かけの大きさが大きい。

★8日未明、日本全国で皆既月食

9月8日未明*、月(満月)が地球の影に入る皆既月食が起こります(右図参照)。日本全国で見られるのは2022年11月以来、約3年ぶりです。観察には特別な道具は必要ありません。観察のポイントは、①皆既になるまでの間、月が地球の影に重なり始め、次第に欠けていく様子(1時27分~2時30分)、②月全体が地球の影に入った皆既中の月の色(見えなくなるわけではなく、暗く赤銅色に見える)とその色合いの変化(2時30分~食の最大3時12分頃)です。普段は見えない地球の丸い影が月に落ちることで目に見える貴重な瞬間です。時間とともに月の高度が下がり見づらくなるので、西側の空が開けた場所で観察しましょう。

※日付に注意。今回は7日夕方に昇り、8日の明け方に沈む月で起こる現象。

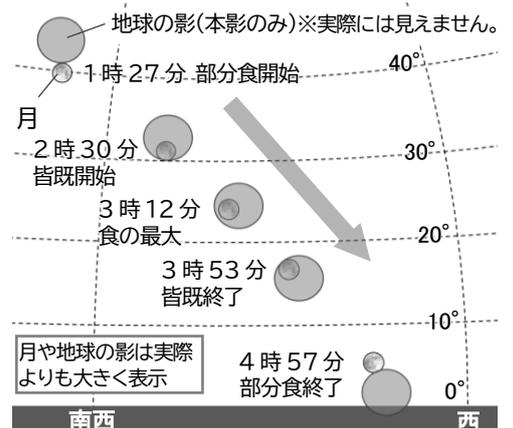


図 9月8日 皆既月食の進行
(StellaNavigator/AstroArtsを基に作成)